

● 人とのつながりの大切さ

榊原洋一（ベネッセ教育総合研究所常任顧問。  
チャイルド・リサーチ・ネット所長。  
お茶の水女子大学名誉教授）

すでに発表されているさまざまな調査によると、新型コロナウイルス感染症による外出自粛などの大きな環境の変化は大人だけでなく子どものメンタルヘルスの質を低下させているという報告があります。それは事実としても、今回の調査で、子育て中の親が他人とのつながりを積極的に求め、気持ちの上での連帯を深めることによって、新型コロナウイルス感染症による多くの不安や苦勞に対応していることがわかりました。

人間は困難を乗り越えることによって、前進することができるというのがこの調査によって示されたと思います。

また、一緒に過ごす時間が増えたことで、家族との時間を大切にしたいという気持ちが強くなったり（プレスリリース資料P3図1-2）、子どもの成長を感じられる様子が増えたりした（同P7付録資料1）ことも大きな発見だと思います。

新型コロナウイルス感染症はまだしばらく続くと思われませんが、私たちは人間同士の絆を深めることによって、この難局を乗り切っていけるという確信を持つことができました。

● 支え合いを通して人や家族とのつながりを再認識

安藤智子（筑波大学人間系教授）

緊急事態宣言を受けて日常生活が大きく変化し、約7割の母親が子育てに不安を感じていました。子育ての悩みを配偶者や周りの人と共有し、気持ちを落ち着ける配慮をもらった母親は、そうでない人に比べて、子育てへの肯定的な気持ちをもっていました。また、母親は、様々な気がかりを抱えながら新しい生活や仕事、子育てに対応されていますが、子育てについて相談できた母親は、そうでない人と比べて子育てへの不安感が低かったようです。家族や人とのつながりを大切にしたいとより思うようになった人が8割いた背景にはこの支え合いの経験があったと思います。

なお、親が支え合い、自分を思いやり守ってくれる経験は、子どもにとっての肯定的な体験的知識となっているでしょう。自分は守られる大切な存在で（自尊感情）、人は困ったことを相談し、助け合って対処できるのだという体験です。

一方、子育てを通じた人とのつながりがないと回答された方が一定数おられました。ニーズがあるのに人とつながっていない方への配慮は大きな課題です。親子に関係する人が、これまで以上に母親に気持ちを向け、声をかける機会をつくっていきたいと思いました。

最後に、回答くださったお母様たちに「本当によくやっておられますね！」とエールを送りたいと思います。